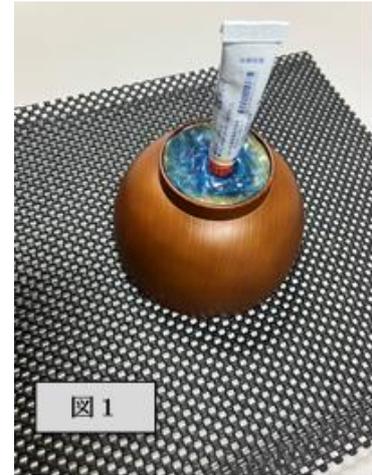


【応募作品の概要・要旨など】 *A4 用紙 1 枚にフォントサイズ 10.5pt にて記載してください。

作品の名称	※20 文字以内で記入 ラクラク！キャップ開けれーる
対象者の領域	※該当する項目()に○を入れる。 身体障害 (○)、精神障害 ()、発達障害 ()、高齢者 ()、 その他 ()
自助具の分類	※該当する項目()に○を入れる。 食事動作 ()、整容動作 ()、更衣動作 ()、排泄動作 ()、入浴動作 ()、 コミュニケーション ()、趣味・余暇活動 () その他(日用品などのキャップの開閉)
用具の種類	※該当する項目()に○を入れる。 工夫・改良品 ()、個別製作品 (○) ※ <u>工夫・改良品</u> 市販品を工夫・改良し活用しやすくした物、 <u>個別製作品</u> アイデアから個別に製作したオリジナルな物、とする
応募作品の概要	※作品の目的や効果、特徴、新規性・独創性（オリジナリティー）などを簡潔に記載する。 <p>以前の実習での見学の中で、2 型糖尿病のためにインスリン自己注射を要する症例があり、認知面は問題なく、自己管理は可能な方であったにも関わらず、末梢神経障害に伴う手指の巧緻性の低下によって、注射キャップの自己開閉が困難なために介助を要していた。また、別な症例では、脳卒中に伴う片麻痺によって不全麻痺が生じ、両手動作が行えない影響で、外用薬の軟膏が入るチューブのキャップ開閉が行えない場面も見学させていただいた。</p> <p>上記症例の様に、巧緻性が低下した者や両手動作が困難な者にとってインスリン注射のキャップや薬の軟膏のキャップなど細かい物品を操作することは日常生活上困難である。また、開閉を要する物品に関しては、細かいのみでなく様々な形状が存在することから専用の開閉器具なども存在しない。例えば、ペットボトルのキャップの開閉に用いるような「ボトルオープナー」のような大きさが一定である自助具では対応が困難である。</p> <p>そこで、両手動作が困難である者や様々な要因で手指の巧緻性が低下し、症例の開閉したい物に対応できる自助具を考案した。逆さにしたお椀を土台にして、高台部分にお湯で温めると柔らかくなる粘土を入れ、キャップの形状の型を取り、キャップ開閉に用いる。特徴としては、可塑性のある素材を用いることであらゆる形状のキャップの型取りが行えるため、様々なキャップ開閉に応用できる点である。</p>
工夫したポイント	<p>上記のように、日常生活上では開閉したいものの、細かい上に様々な形状の物が存在することから専用の開閉器具は存在せずに自力での開閉が難しい症例が多いと思われる。お湯で柔らかくなる粘土を用いていることで、あらゆる形状のキャップ開閉にも応用出来る点は本自助具の魅力である。</p> <p>また、100 円ショップにて材料を揃えられるため（総額 330 円程度）、再現性も高い上にリーズナブルとなっている。</p>
利用上の留意点	※使用上の注意点、耐久性、衛生面といった留意点を記載する。 <ul style="list-style-type: none"> ・開閉したい物品に合わせて、粘土部分をお湯で温め、型取り作業を行う必要がある。 ・(使用者以外が調整する場面が多いと思われるが) お湯を扱うことで火傷のリスクが伴うことで注意が必要である。 ・物品を逆さにして開閉することから、液体の入った物品開閉には適さない。

【応募作品の紹介】 *A4 用紙 2 枚以内にフォントサイズ 10.5pt にて記載してください。

作 製 の 準 備	<p>※使用材質、道具、工具、材料費、などを記載する。</p> <ul style="list-style-type: none">・お椀 (110 円)・おゆまる (お湯で柔らかくなる粘土 ; 110 円)・滑り止めマット (110 円)・お湯の入ったコップまたは皿・滑り止めマットを切るハサミ
応 募 作 品 の 特 徴	<p>※作品の外観、作り方・製作過程、活用場面について写真と説明文を用いて記載する。 ※画像は最大 10 枚とし、自働具の特徴や使用状況が分かるような写真を使用する。</p> <p>1. 作品の外観</p> <p>逆さにしたお椀の高台部分にお湯で柔らかくしたおゆまるが入っている。</p> <p>この写真の中では軟膏の入ったチューブのキャップを型取りに用いている。お椀の下には滑り止めマットを敷いておりお椀部分と固定はしていない。</p> <p>2. 作り方・製作過程</p> <p>①おゆまるを 1 分程度お湯に付ける (その間に滑り止めマットを適当な大きさに切っておく)</p> <p>②柔らかくなったおゆまるを逆さにしたお椀の高台に入れる (図 2)</p> <p>③おゆまるが柔らかい内に開閉したいキャップの型取りをする (図 1 参照)</p> <p>④おゆまるが再び固くなれば、完成 (冷蔵庫にて保存すると、1 分程度で固めることが可能)</p>



3. 活用場面

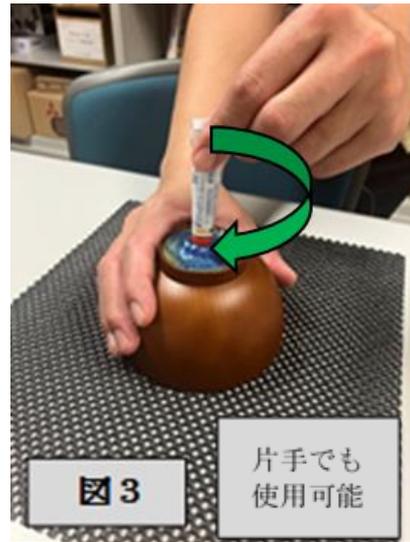
①滑り止めマットを用いる場合

脳卒中による不全麻痺によって両手動作が困難であるものを想定した設定である

(麻痺側を押え手として使用)。

麻痺側上肢でお碗を把持して非麻痺側上肢にて開閉したいキャップを要する物品を把持してお碗の高台部にある型にキャップを差し込み、物品自体を回すことで開閉が可能である(図3)。

図に記載の通り、片手でも使用可能である。

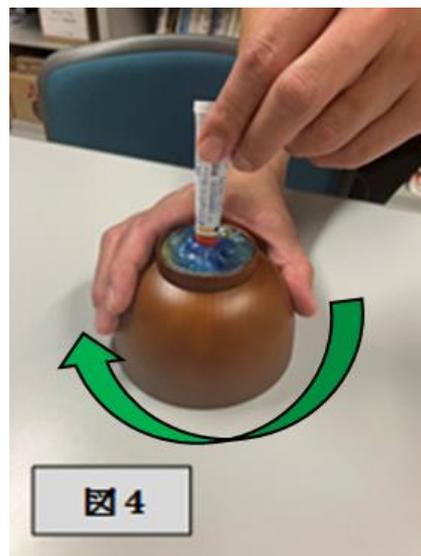


応募作品の特徴

②滑り止めマットを用いない場合

末梢神経障害などに伴う手指の巧緻性が低下した症例を想定した設定である。

一側上肢でお碗を把持し対側上肢にて物品を持ってキャップを型に入れる。予め把持していたお碗を回すことでキャップ開閉が可能である(図4)。



③本自助具をさらにアレンジ

おゆまるの量は、今回は細かい形状を想定して1点で作成を行っているが、2点・3点と量を増やすことで、型取り部分の厚みを持たせることができ、さらに大きな形状のキャップにも対応させることも可能である。そうすることによって、キャップ開閉時に力の入りにくい高齢者にとっても活用することのできる自助具にもなる。

<写真の使用に関して> ※該当する項目()に○を入れる。

用いている写真に個人情報が含まれる場合：

⇒対象者に同意を得ている()、対象者に同意を得ていない()、該当せず(○)

※ご記入いただいた個人情報は、本コンテストの目的以外には一切使用致しません。